

# 「フクシマの大惨事から7年」 ドイツにおける催しのご紹介

## (中編) 日本からの訪問者による講演会

在欧環境ジャーナリスト 川崎陽子

2回目は、2014年から毎年ドイツを訪れて講演や取材を続けておられる、おしどりマコさんの登場です。

また、ありがたい御縁が次々つながって、福島県いわき市から東京に自主避難中の藤原理恵さん（仮名）が二人のお子さんを連れて、ドイツのデュッセルドルフ市とアーヘン市で講演をしてくださいましたので、その報告もします。

### ＊おしどりマコさんのドイツ講演＊

おしどりマコさんは、今年もスイスやドイツ各地で、おしどりケンさんと共にハードな日程をこなされました。DAYS JAPAN6月号の連載記事で、「スイス・ドイツ訪問報告」を書かれています。

3.11後、原発事故の恐ろしさと同時に、情報がいかに隠されるかも知ったコメディアンのおしどりマコさんは、独自で取材を始めました。おかげでマコさんに会うと、日本のテレビや新聞になかなか出てこない情報も得ることができるのです。

毎年のドイツ訪問で、マコさんファンのリピーターも増えているフランクフルトでの講演内容から、一部を紹介しましょう（文字起こしをしてくださった高岡大伸さんに感謝いたします）。

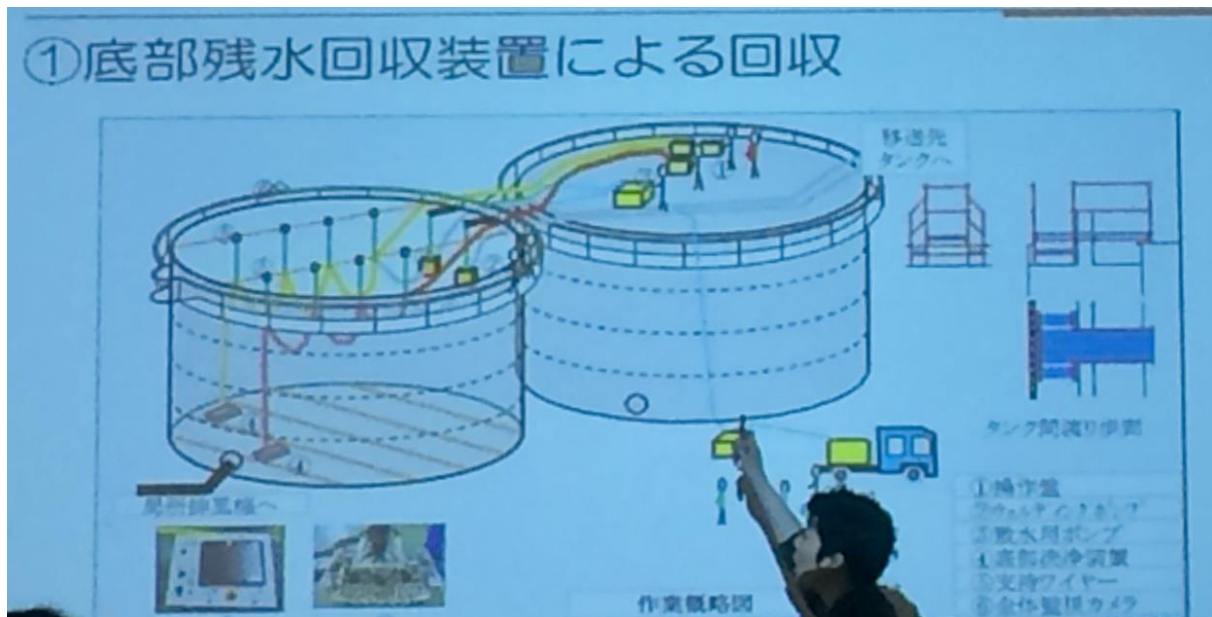
### 東京都の水道水汚染

国の機関が出している水道水のデータから、放射性セシウムが検出された都県が、土壤汚染された地域と重なっていることがわかりました。年々減少してはいるものの、2016年にはまだ福島県、栃木県、東京都で検出、最新データでは東京都だけから検出されました。

### 福島第一原発で最も被ばくする作業

一日400トン増え続けている高濃度汚染水を溜めるために、簡単な作りのフランジタンクが急いで作られました。しかし、2012年に作ったタンクは、2013年には継ぎ目部分から漏れ始めたので、解体して作り替えることになりました。まず、ポンプで高濃度汚染水を抜きます。しかし、底に10センチ程度溜まったままなので、中に作業員が入って抜き取ります。この作業で、作業員はわずか1ヶ月で20ミリシーベ

ルトくらい被ばくします。ちなみに、ドイツの作業員被ばく基準は年間 20 ミリシーベルトです。



「作業は 2014 年からずっと続いています、東電からは 2017 年にやっと資料が出てきました」と説明をするおしどりマコさん

今年（2018 年）4 月から、日本の法律における目の水晶体の線量限度値が、年 150 ミリから 5 年で 100 ミリ（年平均で 20 ミリ）シーベルトと、かなり厳しくなりました。

この法律改定によって、おそらく日本全国でこの作業だけが限度値を超えることとなります。それで、出来るだけ改定前に終わらせようと、今この作業がとても増えています。

2011 年 4 月の ICRP（国際放射線防護委員会）のソウル声明で、それまでよりもはるかに低い水晶体の被曝で白内障になることがわかり、EU などはずぐに自国の線量限度を厳しくする議論を始めました。一方、日本では 2011 年 3 月に原発事故が起こり、水晶体の線量限度を下げると働く人がいなくなるので、なかなか議論が始まらなかったのです。

### 甲状腺検査の問題

福島県では、2011 年 3 月 11 日に県内にいた 18 才以下の子どもたち全員を対象に、20 歳までは 2 年ごと、20 歳を超えたら 5 年ごとに甲状腺検査をしています。

現在、甲状腺がん（悪性ないし悪性疑い）と診断された子どもは 197 人と公表されていますが、経過観察とされた毎年延べ 2000 人前後の患者の中に、何人甲状腺がん

の子どもがいるのかがわかっていません。昨年（2017年）10月に福島県は、2年かけて調査すると答えました。

また、手術の傷跡が目立たないように、福島県立医大病院ではなく甲状腺専門の病院に行って自費で手術するケースも、特に10代の女子に増えていますが、このような患者さんは公表された人数に含まれていないため、実際の子どもの甲状腺がんはもっと多いはずです。

2016年度から始まった「全国がん登録」は、同じ頃に始まったマイナンバーとリンクしています。引っ越しをしたとしても、移動した経歴とガンの情報はリンクされるようになっています。自覚症状がでてから手術をしても充分間に合うので、小児甲状腺検査を縮小もしくは無くして、全国がん登録でという議論が始まっています。

問題は、「全国がん登録」事業で集められた情報が、市民にはオープンにされない事です。開示請求などは認められず、一方で秘密漏洩などの罰則規定があります。ですから、自分の病院でどのようなガンが出て手術したという情報が明らかになっても、罰則規定がつくということです。

（甲状腺がんの問題については、文末の私の論考も参考にしてください。）

### **福島第一原発2号機の内部調査**

溶け落ちた燃料デブリが、どこにどのような状態であるのかが一切分かっていないので、まだ取り出し計画は立っていません。

今まで様々なロボットを使ってもうまくいかなかった内部調査ですが、ロボットを入れる前の事前調査で使った棒つきカメラで、2月に驚くべき情報が得られました。2号機は大きな爆発が無かったため、東京電力はあまり損傷が無かったと思っていました。ところが本来、圧力容器の中にセットしているはずの、核燃料の上についていた15センチ×15センチのハンドルが落下し、その周辺に核燃料も溶けて落ちていることが初めてわかりました。という事は、そのサイズ以上の穴が空いている事になります。

### **セシウムボールと呼ばれる放射性物質**

セシウムボールとは、2014年に初めて論文が出た時は、球状セシウムと言われていた極めて小さいガラス状の球体です。2011年3月14、15日に2号機から出たものと考えられています。チェルノブイリでもスリーマイルでも見られず、福島第一原発で初めて観察されました。水に溶けにくく、土にもくっつかず、単体で環境中に存在しており、ウランやその他さまざまな炉内の構造物が入っています。

人体や環境に与える影響は、まだ調査中で結論はでていませんが、研究者の中からは、事故後の鼻血はセシウムボールが鼻の粘膜を傷つけたためという説が出てきています。

このように、まだまだ分からない事がたくさんあります。学会を取材していると、あとから新発見や評価がでてくるので、今の段階で、福島第一原発事故の汚染の影響がないなどと政府が結論を出す事は、とても早すぎると思います。

### 質疑応答でのおしどりマコさんの回答抜粋

日本よりもドイツの小中学生の方が、講演内容に関心を持っていると感じました。ドイツの高校生や大学生は、最初に講演した2014年の方が、2017年よりずっと関心が高く、専門的な質問も多かったです。

ドイツのメディアにも問題があるとの事ですが、ドイツの方が原発事故について多く報道しているように思います。事故当時、私達もドイツなど海外の情報に頼っていたこともありました。海外のメディアでは、ドイツの情報が一番多かったです。日本の報道と比べる方が間違っているのかもしれませんが。

原子力の問題は世界共通の問題です。情報を知る事はとても大きな力になると思います。当事者だけでなく知る人を増やすことが重要ですが、その知ることというのは、誰かの意見をうのみにすることではなく、自分で調べ、どこにデータがあるかを知って、誰かに伝えられる情報を持つことで、そういう人が増える事によって、状況が改善できると思っています。

### ＊福島県からの自主避難者母子がドイツで講演＊

前述のおしどりマコさんは、政府が決めた避難区域以外でも、放射能で汚染されている地域からは、特に小さい子どもを育てている家族が福島県から自主的に避難して、経済的に苦しい生活を続けていること、そのような自分で得た情報を元に判断し自主避難をした人たちが「非県民」と呼ばれていることも、ドイツで紹介しました。

ここからは、その自主避難者の一人である藤原理恵さんが、ドイツで講演をされた報告です。講演内容の一部を記事（\*文末参照）に書いたときに、藤原さんから聞いた「日本でも、同じ内容の講演をしたり取材を受けたりしましたが、ほとんど報道されることはありませんでした」という言葉が忘れられません。

報道されなければ、おしどりマコさんが訴える「多くの人が情報を知ること」ができません。ですから、是非とも藤原さんの講演内容の記事も読んでいただきたいと思います。

藤原さんが他の二組の母子と欧州に来ることになったきっかけは、偶然の御縁から始まりました。昨年（2017年）の夏、東京経由で福島に取材に行く計画を立てていたとき、やはり日本に一時帰国中の友人が「たんぼぼ舎」での講演会情報を教えてくれたのです。

森松明希子さん（東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream サンドリ代表、原発賠償関西訴訟原告団代表、原発被害者訴訟原告団全国連絡会共同代表、福島県郡山市から大阪府に母子避難中）の講演と知って、予定より1日早く東京に到着して参加することにしました。その会場で、東京訴訟原告の藤原さんと知り合い、後日会ってお話を聴くこともできました。

それから半年余りが経って、グリーンピース・ジャパン（エネルギー担当）の鈴木かずえさんが、国連人権理事会でスピーチをしてもらえる避難者を探していたので、森松さんと藤原さんを紹介しました。そこから話はトントン拍子で進み、スイス、フランス、ドイツで脱原発に取り組んでいる日本人の方々のご尽力もあって、今年3月に3組の自主避難母子のフランス各地での講演、森松さんの国連でのスピーチ（\*文末参照）、そして藤原さん母子のドイツでの講演が実現したのです。



ドイツの講演会では、やはり原告である藤原さんの中学生のお子さんにも、意見陳述書を日本語で読んでもらい、ドイツ語訳を会場で配りました。フランスでもスピーチを経験したそうですが、通訳をとおしたドイツ人からの質問にもハキハキと一生懸命に答える姿は、とても頼もしく思えました。

藤原さんたち母子は、講演会場で避難者家族の絵も紹介し「今日の講演を忘れないでください」と、参加者に絵葉書（上の写真）を配りました。小林憲明（こばやし のりあき）さんは、すでに200家族の避難者の絵を描いているそうです。

藤原さんは、次のように語りました。

「この絵を見た時、子どもは『お母さん、こんなに笑っていない、この絵はウソだ』と言いました。夫は『この絵には原発事故前の妻がいる』と言いました。絵の中で笑顔のお母さんたちは、実際は病気で苦しんだり、悲しんだりしています。原発事故後に死んでしまった犬が、絵の真ん中にある絵もあります。笑うことができないお母さんたちは、絵の中で永遠に微笑みつづけます。小林さんは、涙を流す母親には、祈りをこめて笑顔を描いてくれているのです。」

お母さんたちが、ずっと笑顔のままで子どもたちを抱きしめられる日が1日も早く訪れるように、原発事故被災者の人権を守るために、国境を超えた御縁は広く長くつながっています。

\*本文の中で（\*文末参照）として紹介した記事や動画は、「メディア」欄の以下のサイトからご覧ください。

\*被ばくの知見を生かすために国際機関依存症からの脱却を一小児甲状腺がん多発の例から考える（「科学」2018年2月号）

<https://drive.google.com/file/d/1HI9dNehq1J3pqIN2501Ac5tadnlraYiq/view>

\*原発難民の母子「なぜ福島に帰れないか」、欧州で講演

<http://www.alterna.co.jp/23983>

\*2018/03/19 国連の福島勧告、政府は「同意しただけ」にせず、施策への即時反映を一原発事故被害者とグリーンピースが国連人権理事会で演説

<http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2018/pr201803191/>

\*自主避難者関連サイト

東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream

<http://sandori2014.blog.fc2.com/>

ひなん生活をまもる会

<https://hinamamo.jimdo.com/>